

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信	-	-	20	20	19	
歯学部	歯学科	夜・通信	-	-	23	23	19	
看護福祉学部	看護学科	夜・通信	-	-	20	20	13	
	福祉マネジメント学科	夜・通信	-	-	20	20	13	
心理科学部	臨床心理学科	夜・通信	-	-	15	15	13	
リハビリテーション科学部	理学療法学科	夜・通信	-	-	16	16	13	
	作業療法学科	夜・通信	-	-	15	15	13	
	言語聴覚療法学科	夜・通信	-	-	15.5	15.5	13	
医療技術学部	臨床検査学科	夜・通信	-	-	20	20	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/support/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/support/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/support/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2022年3月23日 ～2024年3月22日	コンプライアンス
非常勤	会社経営者	2022年3月23日 ～2024年3月22日	経営に関するアドバイ スやモニタリング
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画書(シラバス)は、次年度の科目担当教員確定後、概ね 12 月～1 月の期間内で「シラバス WEB 編集システム」を用いて担当教員自身が作成しており、事務局による校正および教員による第三者チェックを経て、3 月下旬までに完成している。</li> <li>・作成した授業計画書は、ホームページへの掲載を行い、学生・教職員だけでなく、高校生や保護者・社会人などの第三者も閲覧できるよう整備している。</li> <li>・記載内容は「建学の理念」「教育理念」「教育目標」「大学及び学部の三方針」「教務日程」「時間割」のほか、各授業科目については、「授業形態」「配当学年・学期」「必修・選択区分」「単位数」「担当者名」「概要」「学修目標」「学修内容」「評価方法」「備考(教科書等)」「学修の準備」「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連」「実務経験」等の各項目で構成されている。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/for/student/syllabus/">http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/for/student/syllabus/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の学修成果を評価するため、「定期試験」「レポート」「小テスト」等、あらかじめ科目ごとに設定し授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法・基準に基づき、厳格かつ適正に単位を授与している。</p> <p>なお、成績の評価については学則において下記の通り定め、授業計画書(シラバス)及び『学生便覧』に掲載し、ホームページにて公表している。</p>	
<p>(成績)</p> <p>第 35 条 授業科目の成績の評価は、優・良・可・不可の 4 種とし、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では客観的な指標としてGPA制度を取り入れている。各科目の評点ごとに下記①のとおりGP (Grade Point) を設定し、原則として不可・失格・履修無効を含む履修登録したすべての科目を対象に下記②の計算式により算出している。

なお、受講を取りやめた科目については、履修登録取消の手続き期間内に所定の手続きを行うことで、GPA算出の対象から除外することができることとしている。また、GPAの算出方法については『学生便覧』及びホームページにて公表している。なお、別添資料の通り、GPAに基づき、成績の分布状況の把握を行っている。

①評価 (評点) 区分とGP

評価等	評点	GP
優	100~90点	4
	89~80点	3
良	79~70点	2
可	69~60点	1
不可	60点未満	0
失格	—	0
履修無効	—	0

GPA 制度について  
GPA (Grade Point Average) とは、履修した授業科目の成績評価 (評点) を所定の点数=GP (Grade Point) に換算して、1 単位あたりの平均値を表したもの

②GPAの計算式

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{左記授業科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/disclosure/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

全学および各学部において下記の通り「学位授与の方針」を定めており、『学生便覧』やホームページ等にて公表している。

**学位授与の方針【全学】**

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

**学位授与の方針【例：薬学部】** ※他学部も同様に学部・学科ごとに定め、公表している。

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な 10 の資質 \* の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

\* 薬剤師として求められる基本的な資質

- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力

また、学則において卒業要件を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）やホームページ等にて公表している。

(単位・時間数) ※例：薬学部（他学部も同様に学部・学科ごとに定めている）

第 30 条 薬学部の学生は別表に定めるとおり、全学教育科目 36 単位及び専門教育科目 161 単位、総計 197 単位以上修得しなければならない。

(卒業)

第 44 条 看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部及び医療技術学部にて 4 年以上、薬学部及び歯学部にて 6 年以上在学し、第 30 条において各学部ごとに定める単位を修得した者については、当該学部の教授会及び評議会の議を経て、学長が卒業を認定する。

上記の方針及び卒業要件を踏まえ、単位修得状況等をもとに各学部教授会及び評議会の議を経て、学長により適切に卒業を認定することとしている。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/</a>
財産目録	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/</a>
事業報告書	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/zaimu/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/tenken/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/tenken/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/tenken/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/tenken/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部薬学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/rinen/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/rinen/</a> ）
（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
<b>教育理念</b> 本学の教育理念を基本として、薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進することにより、人々の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することを薬学部薬学科の教育理念とする。
<b>教育目的</b> 薬学部薬学科の教育理念に沿って、薬剤師としての社会的使命を正しく遂行し得るために必要な豊かな人間性、薬と医療にかかわる科学的知識、研究・実習を通じて体得した技能と問題解決能力を有する人材の養成を本学科の教育目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/</a> ）
（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な 10 の資質*の養成が含まれる。
1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。
* 薬剤師として求められる基本的な資質 ① 薬剤師としての心構え ② 患者・生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チーム医療への参画 ⑤ 基礎的な科学力 ⑥ 薬物療法における実践的能力 ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力 ⑧ 研究能力 ⑨ 自己研鑽 ⑩ 教育能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/</a> ）
（概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
薬学部薬学科の学位授与の方針に基づき、全学年を通して、薬学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育・研究に加えて本学独自の教育課程を展開する。また、チーム医療の重要性を体験する教育プログラムなどを通して、本学で学んだアイデンティティが自覚できるプログラムを構築する。その教育課程の編成・実施の方針を以下に示す。

1. 高い倫理観と豊かな人間性をもつ薬剤師を養成するため、倫理や法規制度に関連する科目ならびにグループ討議を多用したコミュニケーション教育科目を配当する。
2. 薬学専門教育へ向けての基礎学力向上を目的とした教育プログラムを低学年において配当する。また、基礎薬学領域から社会薬学領域、衛生薬学領域、医療薬学領域へと順次段階を経て総合的に修得できるよう、専門教育科目を中心とした教育プログラムを展開する。
3. 医療系総合大学の利点を活かし、薬剤師を含めた医療従事者の職能を理解し、チーム医療の基礎となる全学部共同の教育科目を配当する。また、長期実務実習を配当し、4年次までに修得した知識・技能・態度を医療現場で実践して、地域的視点および国際的視野を持つ薬剤師として必要な基礎的・応用的能力を養成する。
4. 4年次から6年次にかけて、科学者としての薬剤師の能力を涵養するために、配属講座にて少人数制による総合薬学研究を行う。併せて、下級学年の学生の実験指導を通じて、後進の育成の重要性を体感する。
5. 科目の評価は、知識領域については主に試験、技能や態度についてはレポート・チェックリスト・ルーブリック等を用いて評価する。薬学実務実習についてはルーブリックをもとに形成的評価を継続的に行い、指導薬剤師および実務家教員による総合評価を行う。卒業研究は、配属講座教員による形成的評価、卒業研究論文および発表会の内容についてルーブリック等を用いて評価する。
6. 6年間の統合された学修評価は、1年次から担任との面談（年2回）によって作成されている学生カルテや自己評価シートを用いて、配属講座担当教員との面談によって到達度を評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/pharm/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

薬学部薬学科では、学位授与の方針の要件を修得し、チーム医療を始め地域社会や国際社会に貢献できる自立した薬剤師を養成することを目標としています。そのため、本学科では学位授与の方針の要件を、より効果的に達成しうる資質を持った以下のような人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉活動を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 薬学を学ぶ基礎学力\*を有し、高い学習意欲のある人
4. 主体性を持って様々な人々と協同して学ぶ意欲のある人
5. 他の医療スタッフと協働し、薬剤師として活躍したいという強い意志を持っている人
6. 薬学分野の様々なことに強い好奇心と探求心を持ち、最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

**\*基礎学力について**

薬学部薬学科では、入学後、専門科目の基礎として、医薬品の定量的な扱いのための化学計算、物性の理解のための物理化学、医薬品が作用する生体の働きを理解するための有機化学・生化学などの科目があります。また、世界共通の効果作用を持つ医薬品の理解には英語、そして実験実習には英語論文の理解が必要です。すなわち、高校で学習した数学、英語、化学、生物、物理などの知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。

ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

学部等名 歯学部歯学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/rinen/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/rinen/</a> ）
（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
<p><b>教育理念</b></p> <p>本学の教育理念を基本として、歯科保健、歯科医療と福祉の連携・統合をはかる教育を推進し、人々のライフステージに応じた口腔の健康を守る医療人の養成をもって、地域社会ならびに国際社会に貢献し人類の幸福に寄与することを歯学部歯学科の教育理念とする。</p> <p><b>教育目的</b></p> <p>歯学部歯学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と職業倫理を備え、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに、地域的および国際的視野から歯科医学の発展および歯科医療の向上に貢献できる歯科医師の養成を本学科の教育目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/</a> ）
（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
<p>歯学部歯学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している（専門的実践能力）。</li> <li>2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。</li> <li>3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている（自己研鑽力）。</li> <li>4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる（多職種が連携するチーム医療）。</li> <li>5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけている（社会的貢献）。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/</a> ）
（概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
<p>歯学部歯学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医師として必要な基本的知識・技能・態度の修得をめざし、専門基礎科目および専門臨床科目の講義・実習を1年次～4年次に段階的に配当する。また、4年次における共用試験（CBT・OSCE）で基礎項目の評価後、5年次～6年次前期に大学病院、および地域での診療参加型臨床実習を行い、専門的実践能力を養成する。6年次後期には、知識・技能・態度を体系的・総合的に整理し、基本的資質・能力の養成を図る（専門的実践能力）。</li> <li>2. 患者中心の医療を提供し法と倫理を遵守する人間性豊かな歯科医師の養成のために、医療倫理教育および医療コミュニケーション教育を1年次～4年次に段階的に編</li> </ol>

成する。これらの能力については、4年次における共用試験で模擬的・客観的に評価した後、5年次～6年次前期に配当する診療参加型臨床実習によりさらなる養成を図る。また、6年次後期にそれらを体系的・総合的に整理し、本学科が定めた歯科医師として求められる基本的資質・能力の養成を図る（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

3. 研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続ける意欲と態度を有する人材の養成を図るため、歯科医学研究科目を編成し、実施する（自己研鑽力）。
4. 多職種連携に関する講義・演習を1年次～4年次に段階的に配当し、5年次～6年次前期での診療参加型臨床実習において実践する。さらに6年次後期に多職種連携によるチーム医療を体系的・総合的に整理することにより、基本的資質・能力の養成を図る（多職種が連携するチーム医療）。
5. 地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力養成に向けて演習および診療参加型臨床実習を編成する。また、歯学英语科目に加えて、海外医療時事に関する講義・演習科目および海外臨床研修・実習を實踐し、国際的視野の涵養を図る（社会的貢献）。
6. 履修科目の学修達成度は、知識に関しては筆記試験や CBT、技能や態度に関しては OSCE、レポート、ポートフォリオ、チェックリストおよびルーブリック等を用いて評価する。診療参加型臨床実習については、ポートフォリオによる継続的な形成的評価およびコンピテンシー試験で基本的な臨床能力を評価する。グローバルマインド、研究マインドの達成度評価には海外臨床研修の研修報告書や各種学術大会等での発表内容、ルーブリック等を用いた活動状況や達成度から検証する。また、歯科医師として具有すべき知識に関して、その達成度を卒業試験で評価し、臨床実習終了時に技能・態度の総括的な評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/dent/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

歯学部歯学科では、学位授与の方針の要件を修得し、多職種連携によるチーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した歯科医師を養成することを目標としています。そのため、本学科では、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 歯科医師として医療現場で活躍するという強い意志を持っている人
2. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
3. 生涯にわたって学修を継続し、自己を磨く意欲を持っている人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会および国際社会に貢献するという目的意識を持っている人
5. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人

\*基礎学力について

歯学部歯学科では、専門科目でヒトの体の構造と機能を学ぶとともに歯科治療に用いる様々な材料の物性、化学薬品の性質、検査・治療器具の理論を学びます。そこで生物、物理、化学、数学などの科目を理解し、応用できることが入学後の学修成果を高めることとなります。さらに、専門科目を学ぶ際には英語刊行物の理解が必要になることがあり、また、国際化していく医療現場で貢献する準備として英語力が必要となります。ここに示す「基礎学力を有し」とはこれらの科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

学部等名 看護福祉学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/rinen/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/rinen/</a> ） （概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。
<p><b>教育理念</b></p> <p>本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う看護専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の健康の向上に貢献することを看護福祉学部看護学科の教育理念とする。</p> <p><b>教育目的</b></p> <p>看護福祉学部看護学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアを実践できる看護師や保健師など看護専門職業人の養成を本学科の教育目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/</a> ） （概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
<p>看護福祉学部看護学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。</li> <li>2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。</li> <li>3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。</li> <li>4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。</li> <li>5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/</a> ） （概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。
<p>看護福祉学部看護学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つように科目を配当する。</li> <li>2. 1年次では、学修動機の明確化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、看護専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。</li> <li>3. 2年次では、看護専門職に必要な専門基礎知識・技術、および様々な人々を対象とした看護学の知識と援助方法を修得するための科目を配当する。</li> <li>4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、看護専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。</li> </ol>

5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/nss/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部看護学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域社会や人々の健康の向上に貢献できる看護専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉に関心があり、看護を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 看護学を学ぶための基礎学力\*を有し、高い学修意欲および探求心のある人
4. 看護専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人
5. 看護専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

\*基礎学力について

英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要となる化学、生物、物理、大学のリベラルアーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。

学部等名 看護福祉学部福祉マネジメント学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

#### 教育理念

本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う福祉専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の福祉の向上に貢献することを看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育理念とする。

#### 教育目的

看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアの観点から社会福祉士や精神保健福祉士など臨床現場をはじめ、保健・福祉・行政などの場でリーダーとして活躍できる専門職業人の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部福祉マネジメント学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
2. 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/>）

（概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

看護福祉学部福祉マネジメント学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 福祉マネジメント学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つように科目を配当する。
2. 1年次では、学修動機の明確化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、福祉専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。
3. 2年次では、福祉専門職に必要な専門基礎知識および様々な人々を対象とした知識と援助方法を修得するための専門教育科目を配当する。
4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、福祉専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。
5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/fukushi/policy/</a>）</p> <p>（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。</p> <p>看護福祉学部福祉マネジメント学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域や人々の福祉の向上に貢献できる福祉専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健・医療・福祉に関心があり、福祉を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人</li> <li>2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人</li> <li>3. 臨床福祉学を学ぶための基礎学力*を有し、高い学修意欲および探求心のある人</li> <li>4. 福祉専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人</li> <li>5. 福祉専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人</li> </ol> <p>*基礎学力について 英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要となる化学、生物、物理、大学のレベルルーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。</p>
---

<p>学部等名 心理科学部臨床心理学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/rinen/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/rinen/</a>）</p> <p>（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。</p>
<p><b>教育理念</b></p> <p>本学の教育理念を基本として、現代科学技術の成果を認識し、心にかかわる自然科学と人文社会科学の連携による健康科学教育を推進する。生命の価値に対する倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を真摯に受け止めることが出来る知性と感性を備えた人材を養成することにより、人類の幸福に貢献することを心理科学部臨床心理学科の教育理念とする。</p> <p><b>教育目的</b></p> <p>心理科学部臨床心理学科の教育理念に沿って、心にかかわる自然科学と人文社会科学が連携した教育を通して、生命の価値に対する真摯な倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を一生の出来事として受け止めることが出来る知性と感性を備えた公認心理師や産業カウンセラー、スクールカウンセラー等の心理学に関する専門的知識を修得した人材の養成を本学科の教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/</a>）</p> <p>（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。</p>

心理科学部臨床心理学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

心理科学部臨床心理学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 1年次には、大学教育へのスムーズな移行を図るために、導入科目を配当する。また、健康・運動科学および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。
2. 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけるために、教養科目を1年次から2年次に配当する。また、社会のグローバル化・多文化化に対応する外国語科目を1年次から2年次に配当する。
3. 1年次から3年次にかけては、身体科学と対応した心の基礎的な知識を身につけるために関連する医療基盤科目、医療系科目を配当する。
4. 1年次より、専門教育科目の体系化・構造化を図り、臨床心理専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。また、1年次から4年次にわたって、公認心理師受験資格取得科目を配当し、国家資格に必要な知識・技能の修得を図る。
5. 2年次より、多様な職業分野へのキャリア形成を図るため、進路支援科目・産業心理科目を配当する。また、心理臨床の基礎的技能を修得するために、1年次から4年次にわたって、コミュニケーション科目・心理療法科目を配当する。
6. 3年次以降は、専門演習、心理文献講読等の科目履修を通して、自らのテーマによって教養と専門性を維持向上させる研究を実践する。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/shinri/policy/>）  
（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

心理科学部臨床心理学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる心理専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
2. 心の問題に関心を持ち、他者を援助することに意欲を持っている人
3. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
4. 生涯にわたって学び、それを継続する意思を有している人
5. 心理学の専門家として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人

\*基礎学力について

高等学校等で英語、国語等の履修により修得した基礎的知識に加えて、それらを活用し、自ら発展させていく意欲等を含むものをさします。

学部等名 リハビリテーション科学部理学療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

### 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての理学療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念とする。

### 教育目的

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての理学療法士の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/>)

(概要) 教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部理学療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって担当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた理学療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に担当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な理学療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を担当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、スポーツ障害予防等に対応できる科目も担当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を担当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を担当する。
6. リハビリテーション専門職である理学療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部理学療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/rigaku/policy/</a>）</p> <p>（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。</p>
<p>リハビリテーション科学部理学療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる理学療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人</li> <li>2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人</li> <li>3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人</li> <li>4. 保健・医療・福祉に関心があり、理学療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人</li> <li>5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人</li> </ol> <p>*基礎学力について 高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。</p>

<p>学部等名 リハビリテーション科学部作業療法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/rinen/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/rinen/</a>）</p> <p>（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。</p>
<p><b>教育理念</b></p> <p>本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての作業療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念とする。</p> <p><b>教育目的</b></p> <p>リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての作業療法士の養成を本学科の教育目的とする。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>）

（概要）教育課程編成・実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって担当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた作業療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に担当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な作業療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を担当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も担当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を担当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を担当する。
6. リハビリテーション専門職である作業療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部作業療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/sagyo/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部作業療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる作業療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、作業療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

\*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

学部等名 リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

### 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての言語聴覚士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念とする

### 教育目的

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての言語聴覚士の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法学科の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/>）

（概要）教育課程の編成及び実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた言語聴覚療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な言語聴覚療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
6. リハビリテーション専門職である言語聴覚士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/gen/policy/>）

（概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる言語聴覚療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、言語聴覚士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

\*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

学部等名 医療技術学部臨床検査学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/rinen/>）

（概要）教育理念および教育目的を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

### 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤とした臨床検査の専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識と技術の開発・教授に留まらず、「考える力」を駆使する課題解決能力に秀でた人材の養成と、また、保健・医療・福祉の連携・統合を意識し、広い視野を備えた専門職業人の養成により、地域・国際社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを医療技術学部臨床検査学科の教育理念とする。

### 教育目的

医療技術学部臨床検査学科の教育理念に沿って、最先端の科学的知識を基盤とする専門知識と技術に裏打ちされた課題解決能力を身につけ、確固たる倫理観と専門性に基づいて保健・医療・福祉の分野で社会に貢献できる専門職業人としての臨床検査技師の養成を本学科の教育目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>）

（概要）学位授与の方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
2. 臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。
4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。
6. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>）

（概要）教育課程の編成及び実施に関する方針を下記のとおり定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。
2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。
3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学および関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。
4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。
5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1年次～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語（ドイツ語、中国語、ロシア語）を配当し、さらに、英米哲学の問題理解（人間と思想）、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症（医療社会史）、欧米の医療保険制度（医療の経済学）などの異文化理解に関する科目を配当する。
6. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、実技試験、ルーブリックを用いたレポート評価などを適宜実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/medtech/policy/>）  
 （概要）入学者の受入れに関する方針を下記の通り定め、授業計画書、ホームページ等にて公表している。

医療技術学部臨床検査学科では、学位授与の方針の要件を修得し、医療社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる臨床検査専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人

**\*基礎学力について**

医療技術学部臨床検査学科では、入学後、専門科目の基礎として、生体成分の化学的特性やその測定のための化学反応を理解するための化学、検査結果の妥当性を評価するための数学・統計学、生体情報の取得のための音や電気の特性を理解するための物理学、病気による生体成分や生体情報の変化を理解するための生理学・生化学・病理学などの科目があります。すなわち、高校で学習した数学、理科（化学、生物、物理）の知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。

ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
薬学部	—	23人	18人	15人	12人	1人	69人
歯学部	—	29人	10人	21人	45人	24人	129人
看護福祉学部	—	16人	13人	17人	22人	0人	68人
心理科学部	—	6人	3人	5人	3人	0人	17人
リハビリテーション科学部	—	19人	4人	17人	10人	1人	51人
医療技術学部	—	8人	1人	7人	2人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		263人					263人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： <a href="https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/faculty-staff/">https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/faculty-staff/</a>
c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)	
教員の資質向上と能力開発等を目的としたF D研修を実施しており、全学F D委員会主催による年 2 回 (2021 年度実績) の全学F D研修のほか、全学F D講演会や各学部等のF D委員会によるF D活動も行われている (2020 年度実績：のべ 30 回)。	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	160 人	167 人	104.4%	996 人	1,015 人	101.9%	36 人	9 人
歯学部	80 人	73 人	91.3%	480 人	422 人	87.9%	0 人	12 人
看護福祉学部	180 人	178 人	98.9%	730 人	659 人	90.3%	10 人	7 人
心理科学部	75 人	71 人	94.7%	300 人	277 人	92.3%	0 人	0 人
リハビリテ ーション科 学部	180 人	211 人	117.2%	730 人	829 人	113.6%	10 人	3 人
医療技術学部	60 人	70 人	116.7%	240 人	264 人	110.0%	0 人	0 人
合計	735 人	770 人	104.8%	3,476 人	3,466 人	99.7%	56 人	31 人
(備考)								
b. 卒業生数、進学者数、就職者数								
学部等名	卒業生数		進学者数	就職者数 (自営業を含む。)		その他		
薬学部	155 人 (100%)	3 人 (1.9%)	102 人 (65.8%)	50 人 (32.3%)				
歯学部	56 人 (100%)	3 人 (5.4%)	0 人 (0.0%)	53 人 (94.6%)				
看護福祉学部	156 人 (100%)	7 人 (4.5%)	143 人 (91.7%)	6 人 (3.8%)				
心理科学部	55 人 (100%)	13 人 (23.6%)	31 人 (56.4%)	11 人 (20.0%)				
リハビリテ ーション科 学部	184 人 (100%)	0 人 (0.0%)	160 人 (87.0%)	24 人 (13.0%)				
合計	606 人 (100%)	26 人 (4.3%)	479 人 (79.0%)	101 人 (16.7%)				
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)								
薬 学 部：病院・調剤薬局								
歯 学 部：歯科研修医								
看護福祉学部看護学科：病院								
看護福祉学部臨床福祉学科：社会福祉施設、病院、教員、公務員								
心理科学部臨床心理学科：一般企業、社会福祉施設、公務員、大学院								
リハビリテーション科学部								
理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科：病院								

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)・授業計画書(シラバス)は、次年度の科目担当教員確定後、概ね12月～1月の期間内で「シラバス WEB 編集システム」を用いて担当教員自身が作成しており、事務局による校正および教員による第三者チェックを経て、3月下旬までに完成している。  
・作成した授業計画書はホームページにて公表しており、学生・教職員だけでなく、高校生や保護者・社会人などの第三者も閲覧できるよう整備している。  
・記載内容は「建学の理念」「教育理念」「教育目標」「大学及び学部の三方針」「教務日程」「時間割」のほか、各授業科目については、「授業形態」「配当学年・学期」「必修・選択区分」「単位数」「担当者名」「概要」「学修目標」「学修内容」「評価方法」「備考(教科書等)」「学修の準備」「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連」「実務経験」等の各項目で構成されている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) (概要) 全学および各学部において下記の通り「学位授与の方針」を定めており、『学生便覧』に掲載し、ホームページにて公表している。

**学位授与の方針【全学】**

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

**学位授与の方針【例：薬学部】** ※他学部も同様に学部・学科ごとに定め、公表している。

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な10の資質\*の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

\* 薬剤師として求められる基本的な資質

- ① 薬剤師としての心構え
- ② 患者・生活者本位の視点
- ③ コミュニケーション能力
- ④ チーム医療への参画
- ⑤ 基礎的な科学力
- ⑥ 薬物療法における実践的能力
- ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力
- ⑧ 研究能力
- ⑨ 自己研鑽
- ⑩ 教育能力

また、学則において卒業要件を下記のとおり定め、授業計画書（シラバス）及び『学生便覧』に記載し、ホームページにて公表している。

（単位・時間数）※例：薬学部（他学部も同様に学部・学科ごとに定めている）  
 第 30 条 薬学部の学生は別表に定めるとおり、全学教育科目 36 単位及び専門教育科目 161 単位、総計 197 単位以上修得しなければならない。

（卒業）

第 44 条 看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部及び医療技術学部  
 に 4 年以上、薬学部及び歯学部は 6 年以上在学し、第 30 条において各学部ごとに定める単位を修得した者については、当該学部の教授会及び評議会の議を経て、学長が卒業を認定する。

上記の方針及び卒業要件を踏まえ、単位修得状況等をもとに各学部教授会及び評議会の議を経て、学長により適切に卒業を認定することとしている。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	197 単位	有	45 単位
歯学部	歯学科	283 単位	有	60 単位
看護福祉学部	看護学科	132 単位	有	55 単位
	福祉マネジメント 学科	131 単位	有	55 単位
心理科学部	臨床心理学科	127 単位	有	48 単位
リハビリテーショ ン科学部	理学療法学科	132 単位	有	48 単位
	作業療法学科	134 単位	有	48 単位
	言語聴覚療法学科	127 単位	有	48 単位
医療技術学部	臨床検査学科	126 単位	有	46 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/gpa/">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/gpa/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/life_eng.pdf">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/life_eng.pdf</a> <a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/evaluation_eng.pdf">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/disclosure/evaluation_eng.pdf</a>		

- ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬	薬	第1学年 1,600,000円 (第2学年以降 1,900,000円)	300,000円	—円	
歯	歯	第1学年 3,800,000円 (第2学年以降 4,100,000円)	300,000円	—円	
看護福祉	看護	第1学年 1,200,000円 (第2学年以降 1,500,000円)	300,000円	—円	
	福祉 マネジメント	第1学年 690,000円 (第2学年以降 990,000円)	300,000円	—円	
心理科(学)	臨床心理	第1学年 900,000円 (第2学年以降 1,200,000円)	300,000円	—円	
リハビリテーション科(学)	理学療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	—円	
	作業療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	—円	
	言語聴覚療法	第1学年 1,075,000円 (第2学年以降 1,375,000円)	300,000円	—円	
医療技術	臨床検査	第1学年 1,150,000円 (第2学年以降 1,450,000円)	300,000円	—円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 経済的理由により大学進学が困難な状況にある方の進学を支援する「夢つなぎ入試」制度を実施している。また、大学独自の奨学金制度のほか、薬学部・歯学部・看護福祉学部福祉マネジメント学科では学部・学科独自の奨学生制度を設け、経済的に修学を支援している。</p> <p>障がいのある学生への修学支援として、障がい学生支援委員会を設置し合理的配慮の提供体制を整備している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 学生の進路選択に資するよう、低学年次から進路・就職ガイダンスや集中講義形式のキャリアデザイン講座、就職相談会等を実施している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要) 毎年4～5月に定期健康診断を実施しており、同時期に新入生全員を対象としたピロリ菌検査も実施し、学生の健康管理を支援している。また、札幌あいの里キャンパスの大病院は学生も利用することができ、当別キャンパスの保健センターには医師・保健師・看護師が常駐しており、急性疾患への対応やワクチン接種、健康相談などを行っている。なお、両キャンパスに学生相談室を設け、公認心理師・臨床心理士資格を持ったカウンセラーが毎日学生の相談に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/disclosure/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F101310100230
学校名	北海道医療大学
設置者名	学校法人東日本学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		317人	308人	337人
内 訳	第Ⅰ区分	193人	182人	
	第Ⅱ区分	75人	91人	
	第Ⅲ区分	49人	35人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				-
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	20人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	20人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。